

一級自動車工学科・自動車整備科 2026年度 授業計画

時期	1年A巡	単元	実習	教科名	1A_エンジン分解組立1	
科目	自動車整備作業	教科書等 持参品	三級自動車整備士（総合） 実習ノート		発行日	2026.04.01
総時限	23時限				教科 担当	川田
総時間	36.8時間					増茂
単位数	1					

1. 実務経験のある教員による授業科目 該当

自動車整備士として、エンジン整備の実務経験がある教員によりエンジンの構造、作動について指導する。

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

- ①エンジンの構成、部品名称、構造、作動を理解する。
- ②一般工具の取り扱い、習熟する。
- ③3G83型エンジンの分解組立を通じて、ガソリンエンジの基本やバルブ駆動方式を実物を通じて理解を深める。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

- ①エンジンの構成部品、名称、構造、作動が理解出来る。
- ②4ストローク1サイクルガソリンエンジンの作動が理解出来る。
- ③エンジン整備の実務において、1番シリンダ圧縮上死点の意味が理解出来るようになる。
- ④バルブクリアランスの点検調整が出来るようになる。
- ⑤一般工具、特殊工具の使い方が理解でき、適切に使用できるようになる。
- ⑥エンジンの分解、組立手順、注意事項を理解出来る。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。
○×、選択肢、記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満）
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上）
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

事前に次回の授業内容範囲を予習して、テキストを読んでおき、授業内容や質問事項等を学習する。
実習ノートをもとに、各装置の名称、役割、目的を事前に調べてまとめておく。

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。
1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

